

41. 「自分の発見」

2012年1月1日 社会福祉法人 江刺保育園

私たちは自分自身をしっかりと理解していると思っていますが、自分のことは意外と思い違いをしていることが多いのではないのでしょうか。何もなく平穏に生活している時には考えないのでしょうか、急に何か困ったことが起きた時、決断を迷った時、就職や結婚など生活環境が変化した時、どのような判断をしてどんな行動をすればよいのか、慣れない環境に自分をどのように順応させたらよいのかうろたえてしまいます。そんな時、自分はこんな人間なんだと思う時があります。

子ども時代は自分自身のことなど考えることはまずありません。思うままに、楽しさを求めて毎日を過ごします。4歳から歳くらいになると友達と仲良く遊び、とても楽しく過ごしますが、意見が合わなかったり、何かの原因でケンカしたりした時、またいけないことをして親から叱られた時等、どうしてこうなってしまったのか自分のどこないけなかったのか等と自問自答し自分の心を見つめることができるようになります。その時、自分はどんな人間なのかを考えるのです。人の成長は自分自身を自分で理解できるようになるという過程でもあるのです。小学校に入学する前の5歳くらいから自分はこんな人間だと多少なりとも説明することができるようになります。これは自分のとるべき考えや行動を無意識に決定する能力が出来ているからです。自分の良さとか欠点を理解し、他者との関わり合いの中で、自分の目指すべき方向を自分自身で考え、それに向かって生きる準備が備わったのです。この能力を其々の年代ごとに意識、実践しようとする原動力が自分の発見なのだと私は考えています。

自分を発見するために必要なことは、乳児期に愛されて育つことと、幼児期の集団生活で行われる楽しい遊びや、協力する共同作業、時には言い争いやケンカなどの体験が絶対に必要なのです。自分が安心できる人と環境を認識し、他者を通して自分の能力がどのくらいなのかを学習します。その中で自分自身を発見して行くのです。自己の発見とは自分の中にある様々な力を意識しそれを見つけ出す作業です。子どもの時はまず自分は、女の子なのか男の子なのかを知ることが最初の自分の発見です。そして幼稚園や保育園時代の多くの友達や交流等の関わり合いの中で自分の得意なこと、苦手なこと、楽しいこと、辛いこと等、が明らかになります。そして今の自分に出来ることはどんなことなのかが明らかになるのです。

そんな中で私たち大人の関わり合いが、子ども時代の自分の発見に大きな影響を及ぼしているのです。大人がどのように働いているのか、どんな話をしているのか、何を楽しんでいるのか、何を努力しているのか等、大人の生き方を見ながら、徐々に自分の進むべき方向性を探し、自分はどのように生きべきか、どのように生きたいのかを子どもなりに見つけ出そうとするのです。子ども時代は未知の自分を発見するというよりは、自分自身を築き上げるといった方が正解であるかもしれません。私たち大人は自分自身の子どもたちへの愛情を決して疑ってはいけません。その私たち大人の豊かな愛情の中で子ども時代を過ごし、そして様々な体験や出会いを通して自分の能力を見つげ出し自分という人間を自分の力で構築して行くのです。そして大人になって本当の自分自身の姿を見つげ出すのです。社会に出て多くの人々と協力し働き始めたときに自分の中に豊かな才能と努力する力がいつの間にか備わっていたことに気が付くでしょう。子どもたちが大人になった時に、自分を愛してくれた多くの人たちの顔を思い浮かべ、愛され支えてくれたことを心から感謝できる人間になるようにと私は祈ります。



マカロニかりんとう (10人分)

マカロニ 100g
揚げ油
黒砂糖 50g
きな粉 50g

作り方

- ① マカロニを油で揚げる。
- ② 黒砂糖に少量お湯を入れ溶かす。
- ③ 揚げたマカロニをお湯で溶かした黒砂糖でからめて、きな粉をまぶす。

